ザ・恋愛結婚への道
初稿01
５節まで

20240609

エリー

目次

初稿 20240609　５節まで 1
企画書 10

初稿 20240609　５節まで

1、ライン交換

　神崎光 (かんざきひかり) は高校１年生。負けず嫌いなのに気が弱くて、ピリついた空気を感じると自分を犠牲にしてでも解消しようとする。
　初日に学級委員が決まらなかった時、立候補した。

　そして４月中旬の今日も、塾の補習があるのに、用務員にサインをもらう雑用を引き受けてしまう。

　光は「いつも自転車置き場にいる人だろう」と担任に聞かずに飛び出す。

(やっぱり、いたいた！)

「1 年 A 組の神崎です。サインをいただきに来ました！」

　書類を差し出す。

「よく間違われるけどわたしじゃないよ」

(ええ！！)

(あと１０分で学校を出ないと間に合わない)

(どうしよう)

(って、自分のことより頼まれたことだよね！)

「担当者さまはどちらに？」

「校舎で点検してるはず」

(探す範囲が広いよ〜)

「ありがとうございます」

　お礼を言って走り出そうとした瞬間、書類が奪われる。

「俺がやっとくよ」

　振り返ると同じクラスの人気者、水井等 (みずいひとし) がスマホを差し出していた。
「ちゃんと報告するから大丈夫。ラインを交換しよう！」

(そんなことで教えたくないのだが、反論してる時間はない！)

　スマホを取り出し交換する。

「よろしくおねがいします！」

「OK、任せて」

　振り返らず、光はダッシュで塾へ向かう。

　塾が終わって、光がラインを確認する。担任とどや顔の等のツーショット写真が届いている。
　すぐに「ありがとうございます」と返信する。

(間違いなく届けてくれたとよく分かるけど、写真はもういらなくないか？)

　消そうとして、そのまま閉じる。

(もう開くこともないから消さなくてもいいか)

(早く、ご飯と風呂を済まさないと夜のビジネスニュースが始まっちゃう！)

　早足で歩き出す。

　寝る支度を終えて、光は麦茶を取りに冷蔵庫に向かう。

　居間では、母が父のプレゼントに怒っている。

「好みってものがあるの！」

(またやってる。喜んであげればいいのに)

　うなだれた父がつぶやく。

「どうせ俺はセンスがないよ」

(自信ないならほしいものを聞いたらいいのに、サプライズ好きなんだから)

　「光はどう思う？」と聞かれる前に自室に避難する。

(わたしは一人でなんでもできるようになって、結婚なんかしない)

(絶対、面白い商品の記事を書くライターになるんだ)

　スマホで夜のビジネスニュースを見始める。

2、図書館

　水井等は、誰にでも優しく、クラスの人気者。いつも輪の中心にいる。

　楽しいけど、迷う日々を粉砕したのは、光との出会い。

　等とは正反対で、いつも一人で行動している。

　話してみたくて、「光さんはどう思う？」と話を振るのだが、いつの間にかいない。
　男友だちが、からかう。

「等は神崎さんが好きなの？」

「好きだよ。話してみたいけど、邪魔したくなくて.....」

　女友だちが、参加してくる。

「あの娘が気づくの待ってたら卒業して終りよ？　　協力してやるからデートに誘いな！」
「いいの？　　実は１０月にデートに誘うつもりでバイトしてたんだ」

　女友だちが真顔で答える。

「人気の占い師がいる遊園地知ってるから、見てもらえば？」

「え、いきなり結果聞くのは怖いから、先に一人で行ってみようかな」

　通知オンが鳴る。

「遊園地のリンクを LINE したよ」

「助かる。ありがと」

　みんなと別れて、図書館にいるはずの光を追いかける。

　等は、最初は遠くに座って宿題をしていた。全く気づく気配がないので、光の隣に座るようになる。
　光は「記事の書き方」や「ビジネス書」ばかり読んでる。

(ビジネス関係のライターを目指してるのかも？)

(俺も絵が好きだけど、画家よりＴシャツとか作りたいな)

(光さんに紹介してもらえたらいいなあ)

　宿題を終えた等は、心の中で光に「いってきます」を言い、バイトに向かう。

(家族のために働くってこんな感じ？)

(俺は自分のためには頑張れないらしい)

(でも笑顔を見るためなら頑張れる)

(その相手は、光さんであってほしい)

　等は、眼中にない状態から興味をもってもらう方法を模索する。

3、負けたくない！

　秋空が美しい１０月のある日、それは起きた。

　放課後、光がいつも通り図書館で調べものをするために教室をでようとする。

　しかし前も後ろも、男どもが出入り口を塞ぐように立っていて出られない。

「通してください！」と言おうとした瞬間、光を女子たちが囲む。

「いじめか？」と思い身構える。不意に後ろから声をかけられる。

「光さん！」

振り向くと等が立っていた。

「俺と一緒に遊園地に行ってください！」

(罰ゲーム？)

(からかってる？)

(だって、地味な学級委員とチャラいクラスの人気者よ。なんで！？)

光が周りを見回すと、全員注目している。

(共犯か！)

(逃げたと思われたくない！)

(意地悪に負けたくない！)

「受けてたちます！」

一瞬、周りに「ん？」という不思議な表情が浮かぶ。

(わたし、なんか間違えた？)

通知オンが鳴る。

スマホを開くと等からのラインだった。

日時と遊園地のリンク。

「一緒に行くのと、現地集合なら、どっちがいい？」

「現地で！」

　光が即答する。

4、待ち合わせ

　光は１０個もてるてる坊主を逆さまに吊るして、大雨になることを願った。こんなに季節外れの台風を待ち望んだことはかつて一度もない。
　毎日天気予報を見続けて、「秋晴れ」という言葉が嫌いになる。

(約束したのに行かないのは、負けた気がするので嫌だ)

(でもよく知らん男の子と１日中二人で過ごすのはもっと嫌だ)

「行く前から帰りたい」

　思わず声に出してしまうほど、憂鬱だった。

　律儀に約束の時間までに、遊園地のゲート前に着く。

　光を見つけた等が、ニコニコと手を振って近づいてくる。

(本当は罰ゲームで演技だったら名優だよ！)

「お待たせしました」

　光は軽く会釈する。

「絶対、来てくれると信じてた」

　光の周りを等がぐるりと回る。

「私服姿もかわいいね！」

(誰にでもそういうこと言ってそう)

(否定するのもムカつく！)

「ありがとうございます」

　窓口に歩き出した等に着いていく。

「今日は全部、俺のおごり。チケット代も、飲食代も、俺が払う！」

　光は慌てて否定する。

「付き合ってもないのに払ってもらえないです。自分で払います！」

　等が光にウインクしてくる。

「俺を知ってもらうために、光さんを招待したんだから、俺が払うのは当然。この日のためにバイトしたんだから！」
　圧に負けて、光は押しきられてしまう。

(この人、まるで本当にデートがしたくて誘ったみたい.....なんで？)

(ほとんど話したことないのに？)

　だからといって、急に好きになれるわけでも、興味がわくわけでもない。

　光の人生を変える長い長い１日が始まった。

5、コーヒーカップ

　等は、最初の遊具にコーヒーカップを選ぶ。お互いの顔が見えて、気持ちが分かるから。
　案の定、乗り気ではない光はつまらなさそうにうつむいて、よそ事を考えている。
　早く帰りたいのに、何時までいるつもりなのか、分からないからだれてるんだろう。
　チケット代をおごってもらったのにすぐに帰るとは言わないことも、想像がついていた。
(目的と期限を示して、曖昧さから解放してあげよう)

　等が光に宣言する。

「今日一日、恋人のように振る舞います。夕方５時に気持ちを聞くので、合格なら正式に付き合ってください！」
(返事を求められた驚きより、５時に帰れる安堵の方が大きいようだ)

(光さんならはっきりいった方がよいという判断は間違ってなかった)

(俺に与えられたチャンスは今日１度きり)

　考え抜いたプランが成功して、等は胸をなでおろした。

企画書

０、タイトル

ザ・恋愛結婚への道

１、媒体・メディア

小説

ブクログで無料公開する

ブクログで紙出版して配る

２、企画意図（ 箇条書きで ）

2-1 目的と優先順位が決まれば、意図がうまれるので利害調整できる。それが恋愛結婚への道。
2-2 利害調整を避けてだらだら付き合っても、結婚前に別れることになる。

３、いちばんやりたいこと（ テーマ・メッセージ・主張 ）

3-1 テーマは、占いの役立て方。

3-2 メッセージは、自分で考え抜かないと占っても効果ないよ。

3-3

光は考え方がわかった！

等は覚悟が決まった！

４、世界観（ ギミック・舞台設定・世界設定 ）

現代日本で、高１の男女が、遊園地デートで急速に仲が深まる。

５、セールスポイント

「自分は好きだから近くにいようとするので、相手から近づいたら好きだからなのか？」という段階で３年以上止まっている人がたくさんいる。
恋愛結婚したい人は、「話を前に進めるとは、どういう会話をすればいいのか？」に興味があるはず。

６、ターゲット

女子高生。

７、主要人物（ キャラクター ）

神崎光

水井等

８、全体あらすじ（ プロット ）

　学級委員の少女、神崎　光 (かんざき　ひかり) は、ちょっとした対立にも神経質になり、自分を犠牲にしてしまう。

　４月のある日、塾があるのに、沈黙に耐えられず、用事を引き受けてしまう。

　しかし、堀川さんと堀越さんを勘違いする。すぐに行かないと塾に間に合わない。困っているところへクラスメイトの少年、水井　等 (みずい　ひとし) が現れる。

　等に「任務完了を報告をするからラインを交換してほしい」と言われ教えてしまう。

　塾が終わってラインを見るとどや顔を決めた等と担任のツーショット写真が届いていた。

　家に帰ると、母は父からの誕生日プレゼントが気に入らなくて怒っている。

　光は自分は結婚しないでキャリアを築くと改めて決意する。

その後、等からラインが来ることはなく、１０月になる。

クラスメイトが囃し立てる中で、等に遊園地にデートに誘われる。

みんなぐるになってからかっていると思い込んだ光は、負けたくないから承諾してしまう。

デート当日、チケットも飲食代も全部払うという等に、光は抵抗する。

しかし、自分を知ってもらうために誘ったからと押しきられる。

最初にコーヒーカップに乗る。つまらなさそうに自分の世界に入る光。

光に自分を意識しても為、等は、帰るまでに正式に付き合うか返事をしてほしい言う。

光は、いくら考えても等が好きか分からなくて悩む。

激しいアトラクションで喉が乾くが、おごりなので遠慮する。

状況を察した等に説得されて飲む。

占い師のアドバイスで、「感情は水物だから嫌でないなら十分。利害調整できるかが大事」と言われる。

意識が変わった光は、メリーゴーランドに乗りたいと言う。馬車の内側に乗った為、「影絵が見えない」と素直に言う。席を途中で代わる。

しかし、古くさい珊瑚の指輪をプレゼントされて、思わず母親のように感情的に怒ってしまう。

マジックハウスに一人ずつ入って、互いに反省する。

無言のまま観覧車に乗る。光はネガティブなことばかり考える。

等が「おばあちゃんの形見でお守りだからもっててほしかった。つける指輪はお揃いで一緒に買おう」と言う。

光はこれまでの自分について等に話す。嫌われるかと思いきや、「普通だよ」と言われる。

予告どおり告白されて OK する。

マックで等の事情を聞く。みんなは等が光を好きと知っていて応援している。

一人になった帰りのバスで、光は未来を具体的に考え始める。

９、醍醐味（ 新規性・独自性 ）

本当にタロットで占った結果を採用しているところ。

ザ・恋愛結婚への道　初稿01　20240609

著　　ELYE

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社